

エメラルドグリーンの海を、シンプルな構造物が緩やかな弧を描いて消えていく。

こんなに美しい橋は、日本でもここだけかも知れません。

この風景は、3つの要素から成り立っています。

①エメラルドグリーン的大海

南国ビーチのような海の色は、とても日本海とは思えません。これには地理的な条件があります。

透明度の高い水、浅瀬、白い砂

白い砂は、砂ではなく貝殻でした。

角島は安山岩質の黒い岩肌の島で、海岸の大部分は黒い岩が目立つのですが、季節風の吹き込む北西に開いた湾だけが、沖合の貝殻を集めるため白くみえるのです。

②とてもシンプルな橋

橋は柱脚に箱桁が載るだけのシンプルな構造です。トラス橋や吊橋のように、大掛かりな構造物ではありません。欄干なども目立たず、細い照明柱が見えるのみです。

角島との間に鳩島という小島があります。その鳩島を避けて、橋は緩やかにカーブしています。事業コストを考えると、鳩島に橋脚を建て、一直線に架橋するのが一般的です。

③対岸に建物などが無い

偶然にも対岸には建物などが見えず、鳩島の陰に隠れるように、橋は消えています。

美しい自然を壊さないよう遠慮がちに、でも、島を活性化させるといふ誇りをもって、角島大橋はそこにありました。

まちあるきの 考古学

角島大橋

絶景の山口



萩 旧武家屋敷 絶景の山口



萩は江戸時代の絵図をたよりにまちあるきができます。
町の街路網が当時からほとんど変わっていないためです。

上級武家の屋敷が並んでいた堀内地区は、一直線にのびる道路沿いに石垣や白漆喰の土塀が連なり、所々に大きな屋敷門が残っています。

20年前に初めて訪れたとき、道路からは廃屋や荒地がみえ、荒廃した古い町といった風情でした。町中に断片的に残る武家屋敷のみが、旧城下町の雰囲気伝えていました。

10年前の再訪時、総門(城内への出入門)や外堀の復元工事が行われ、堀内地区でも石垣の積み直しや土塀の工事がされていたのを覚えています。

訪れるたび、萩は城下町に還っていく、そんな思いを強くした今回のまちあるきでした。



秋芳洞

絶景の山口

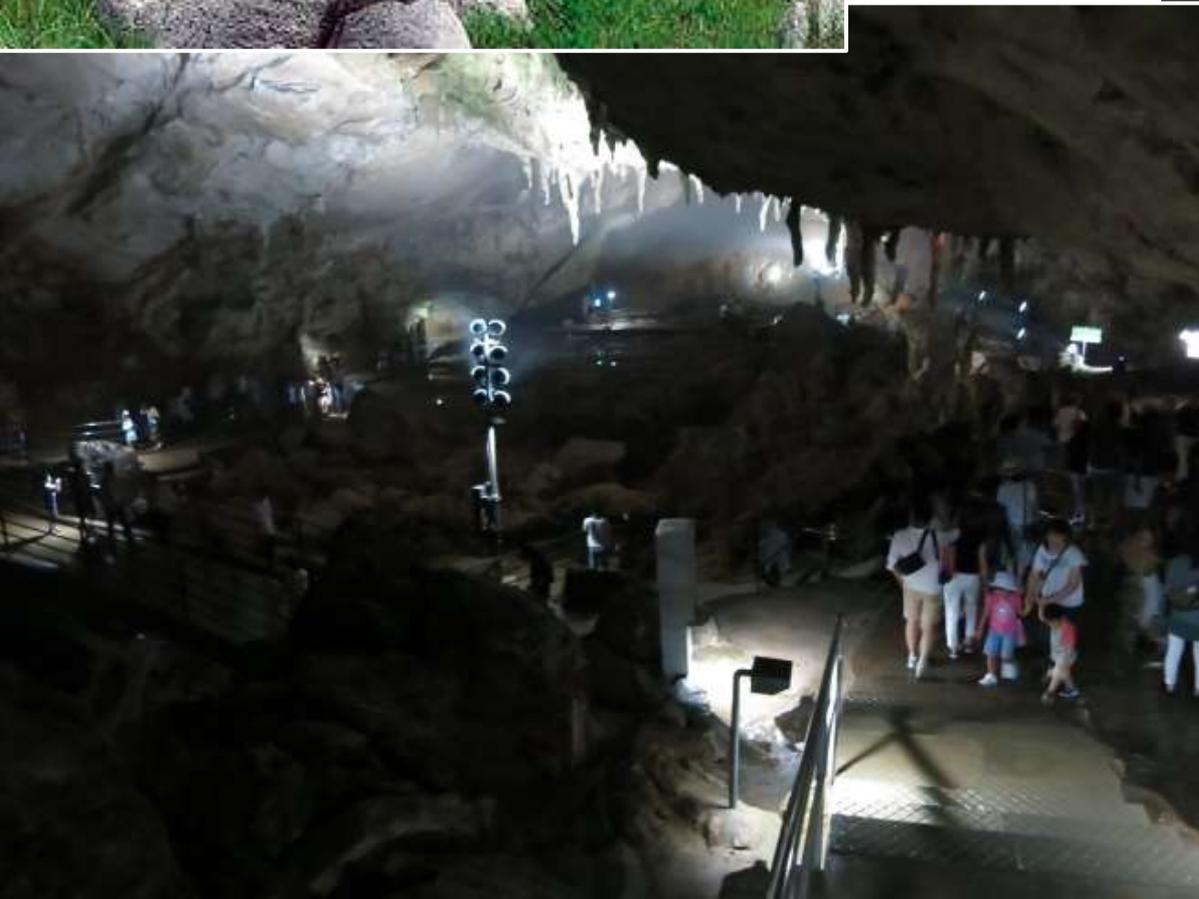


悠久の時間が刻んだ比類なき自然の造形美

見渡すかぎりの草原に散りばめられた無数の石灰岩は、新たに芽吹いた小さな生命のようにもみえます。

その直下に広がる鍾乳洞。

神様の気まぐれとしか言いようのない自然の奇跡は、訪れる人すべてに、言葉にできないほどの感動をもたらします。



瑠璃光寺五重塔

絶景の山口

湧き立つような木々の緑に埋もれながら、
凜として佇む瑠璃光寺五重塔。
それは、とても美しい立ち姿です。

建築物としてではなく、周りの風景を取り込んだ、「一葉の絵」
として見るのが、正しい鑑賞法のようにです。

ほかの五重塔にはないものです。

建築的にも多くの特徴があります。

檜皮葺きの屋根は、重厚だが柔らかな質感を生み出し、その
軽さ故に、深い軒と反りのある屋根形状を可能にしました。

初層の軒高が高く上層ほど低くなり、初層のみにある連子窓、
二重目のみの高欄など、各層がそれぞれ異なった意匠を凝ら
しているのも特徴です。

水面に映える姿が、
塔の存在感を引き出
ています。

無数の平行垂木が深
い軒を支えています。
それは、生き物のよう
にもみえます。

[まちあるきの 考古学
ホーム](#)

